

【申請団体一覧】休眠預金事業 2 0 2 4 年度通常枠＜第 2 回＞市町域の『災害中間支援組織』発掘・育成・機能強化事業

	申請団体名	所在地	事業名	事業概要
1	特定非営利活動法人アリタカラ	佐賀県西松浦郡有田町	災害時に効力を発揮する 「うちやまネットワーク」構築事業	有田内山地区は、陶磁器の生産を軸として江戸時代に整えられた町並みを有している。現在も約 2 キロに渡り、新旧様々な店舗が軒を連ね、観光資源としても価値の高い国内有数の伝統的建造物群保存地区となっている。一方で町内でも人口減少、高齢化が著しく、空き家・空き店舗が増加し、陶器市以外に訪れる観光客も少ないといった課題を抱える。こうした中、内山地区に魅力を感じ、新規に店舗を構える事業者もあり、そうした店が安定した経営を続けられるようにまち全体での取り組みが必要とされている。新旧の店舗の横の繋がりを作り、互いに応援する関係性ができれば、観光客の内山地区の回遊を促し、滞在時間や観光消費額の増加も期待できる。こうした商業ベースでの「うちやま百貨店ネットワーク」を整備・拡大する中で、これを災害時にも生かしたい。このため、ネットワークを統括するハブとなる拠点を整備し、観光客など外部の人の他、事業者や住民が気軽に訪れることのできる場所を作る。この拠点で様々な情報を集約し、情報発信を行う他、災害関連の勉強会、講演会、ワークショップなどを開催する。店舗の事業者は内山地区に居住していない人もいるが、そうした事業者と住民が繋がり、地域の防災・災害に関する情報を共有することは重要である。事業者と住民が繋がる場を作り、行政・福祉協議会との連携体制を構築することで、誰もが安全・安心に仕事をし、暮らせるまちを目指す。
2	一般社団法人おもやい	佐賀県武雄市	「いのちを守る」つながりを育むフェーズフリー連携 市町地域での災害支援ネットワークと地域防災育成強化事業	本事業は、頻発する自然災害から住民の「命」を守るため、災害発生後も地域が主体的に安心・安全を確保できる社会の実現を目指す。外部支援に依存せず、地域の内発的力で災害を乗り越え、持続可能なコミュニティを築くことが目的である。さらに、平時からの市民活動を活発化させ、行政・社会福祉協議会・NPO の三者が有機的に連携し、日常的な課題解決から災害時の協働までシームレスに対応できる、レジリエンスの高い地域社会を目指す。 この目標達成のため、事業は二つの柱で活動を展開する。一つは、地域における災害中間支援組織の形成・強化である。当該自治体内の NPO・ボランティア団体の状況把握や関係機関へのヒアリングを通じた調査、地域ミーティングでのネットワーク形成、専門家による研修会開催などを実施し、組織の専門性向上を図る。もう一つは、多主体連携の促進とフェーズフリーな地域づくり推進である。行政・社協・NPO の連携会議を継続的に開催し、日常的な連携を強化する。また、料理コンテストでの防災食紹介や防災ロープワーク体験など、「フェーズフリー」の概念に基づいたイベントを企画・実施し、日常の活動を通じて防災意識と実践的スキルを習得できる機会を創出する。これにより、地域内の CSO/NPO・NGO ネットワークを形成し、互いの悩みや災害時の弱点を共有できる関係性を構築していく。

3	特定非営利活動法人 温暖化防止ネット	佐賀県佐賀市	災害時のレジリエンス向上に向けたリユース PV 導入モデル構築事業	佐賀県内の事業者および佐賀県と連携し、使用済みの太陽光パネル（以下「PV」）を再利用して、安価に導入可能なリユース PV システムの開発と実証を行う。並行して、過疎化や高齢化が進み、地域の人のつながりが希薄になっている中山間地において、災害時に電力供給を担う小規模拠点の候補地を発掘し、地域の住民、CSO、企業等との連携を通じて、地域内ネットワークの基盤を整備する。 将来的には、このネットワークが形成された地域に対して、確立したリユース PV システムの導入を展開し、最低限の充電が可能な拠点網の整備を進めることで、地域の災害レジリエンスの向上を図る。 【実施業務】 - リユース PV システムの開発・実証 - 実証候補施設の選定・調整および設置準備 - リユース PV システムの開発 - 実証施設での設置・運用、課題の抽出 - 運用結果に基づく検証と改善を通じた、リユース PV 導入モデルの確立 - 地域ネットワークの形成 - 災害時の電力供給ニーズが高い地域の選定 - 当該地域における供給拠点候補施設のリストアップ - 当該地域における資源（物資、資金、機能、人員等）の整理、ネットワーク形成の可能性調査、関係構築
4	特定非営利活動法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会	佐賀県小城市	災害後も「こどものウェルビーイング」を保障するまちづくり	- こどもの防災意識調査 - 小学年生を対象に、自分の身を守るための知識、日頃の備え、日頃感じていることなど調査する - こどものための防災提言 - 調査結果を分析した後、こどものための防災について提言をする - 本音を語る「ぼうさいかふえ」開催 - 少人数でざっくばらんに防災を語り合う集まりを開催する - こどもとつくるこどものための防災 MAP 作成 7 小学校校区ごとにこどもの安全をまもるための情報 MAP を作成する - こどものこころのケアに対応できるための研修を開催する - こどものための PFA「緊急下の子どものこころのケア/子どものための心理的応急処置」研修実施 - 防災シンポジウム開催

5	一般社団法人隣友の会	佐賀県佐賀市	私の・あなたの・防災、減災へ つながる、備える暮らし～	県全域の防災について佐賀災害支援プラットフォーム（以下 SPF）のネットワークに参画すると共に、当該地域（吉野ヶ里町）において行政や社会福祉協議会、自治会、CSO、地元企業といった官民に加えて学校等とのネットワークを新たに構築する。 これまで弊会が行政と連携し行ってきた困窮者支援活動で培ったつながりを生かし、福祉課、こども保健課を入りに総務課交通防災係や商工観光課とも連携できるよう働きかける。情報共有を端緒とし、定期的な会合の開催や連携協定、最終的には防災目的の公共施設供用も目指す。吉野ヶ里町民に対しても同様にすでに連携して支援活動を行っている CSO や社会福祉協議会を通じて防災・減災に関わる情報共有と啓発を行い、平時には地域コミュニティの維持・活性化をそして発災時には皆で皆を守る仕組みを作る
---	------------	--------	-----------------------------	--

公益財団法人佐賀未来創造基金

一般社団法人佐賀災害支援プラットフォーム